

みなと元町

Town News

タウンニュース

No. 301



発行:みなと元町タウン協議会 住所:〒650-0022 神戸市中央区元町通3-13-1協和会館内 発行人:奈良山喬一 編集人:岩田照彦 電話・FAX:078-391-0831

地域拡大にあわせ「神戸駅東地区クリーンチーム」スタート 30度を超える炎天下、奈良山会長ら企業の男女47名が参加

平成12年7月、ハーバーロードに面した地域まちづくりのため「もとまちハーバー懇談会」が発足した。平成7年1月7日に発生した阪神淡路大震災の後、ホテルシェレナは閉店のまま、再開の気配もない時期である。エスタシオン・デ・神戸で開いた発会式には、神戸市をはじめ協議会各地域代表も参加した。やがてホテルシェレナは4分割され、マンションや学生寮に変身、神戸貯金事務センターは高層マン

ションに。ファミリア跡地でもマンション建設がきまり、ハーバーロードはホテルシェレナ時代の建物を一部残し、懇談会発足時の景観を一新した。懇談会発足時、300名近い社員が働く神戸貯金事務センターでは、月に1度、地域のクリーン作戦を実施されていた。例会で事情を把握、沿道のエスタシオン・デ・神戸、ネットヨタ兵庫(株)も賛同、社員数の多い3社が、10日間隔でそれぞれ月に1度、クリーン作戦を行ってきた。



■エスタシオン・デ・神戸中心のクリーンチーム



■ネットヨタ兵庫(株)のクリーンチーム



会長も参加、一行は同社前からハーバーロードを横断、国道2号線沿いに西へ向かう。(株)カキタケ、中央消防署栄町出張所、神戸市宇治川ポンプ場前からクリスタルタワー、D51のある神戸駅南駐車場を経由して西元町きらら広場までのコースである。人事総務部の横田正課長がまとめるネットヨタグループ26名は、ハーバーロードから旧ファミリアを左折、東成ビルから右折後神戸明石線からきらら広場に至るコース。あいあいネット神戸は、木村由己子代表と博愛病院事務局長とともに元町通7丁目一帯を清掃後、西元町きらら広場へ集合した。

みの多かったのは、2号線沿いの道路。ポンプ場など人気のない建物に面し、人も車の通行量も少なく、気軽に駐停車できるため、ごみの捨て場所とする人があり、傘の残骸や缶、ペットボトルのほか多種類のごみを回収した。

一方、従来からごみの多かったきらら広場は植込みが整理され、以前ほどごみは目立たなかったが、機関車D51周辺は、立ち入りを防ぐ柵もある関係から、周辺に吸い殻などが点在、それぞれに多様なごみを回収して12時45分、全員作業を終えた。

「元町・夢街道」

書店の話(3)

鳩居堂(2)

岩田照彦

熊谷幸介が神戸へやってきたときのことを、兵庫県書籍雑誌商組合創立三十年誌は、次のように紹介する。

氏(幸介)は弘化四(一八四七)年、京都市寺町通姉小路角熊谷鳩居堂主、熊谷直行氏の令弟として生れ、壮年の頃、神戸市相生町鳩居堂支店に來り勤め、明治七年頃、元町七丁目(元字宇治野町)借宅に於て書籍・香・筆墨販売の業を開始せり。

「鳩居堂支店に來り勤め」とあるから、開港で一躍、注目を浴びることになった神戸の店に兄の直行が弟の幸介を送り込んだ、というのが素直な受けとり方だろう。ただ年齢は「壮年の頃」というが、幸介が借宅で開業したのが明治七年だとすると二十七歳だから、壮年というより、二十代はじめの若者だったと推測される。

幸介が、相生町の鳩居堂から元町七丁目の借宅に鳩居堂の営業舞台をうつすのは明治七年頃、という。相生町と元町七丁目では目と鼻の先といつてよい。店を広くするためか、あるいはより人通りの多い場所への進出なのか。京都の本店と違うのは、鳩居堂が本業とする香・筆墨の営業種目の前に、「書籍」の文字が座っていることだ。

幸介が生まれ育った京都では、明治元年でも一六三の書店(京都書林仲間記録)があったという。本に親しむ機会も多かったにちがいない。神戸でも、文部省が発足した明治四年以来、兵庫県令の神田孝平は、当時、区長だった生島四郎大夫らに小学校の設立をうながしていた。明治六年(一八七三)一月には、塾の師匠を小学校の教師に採用するとして「塾へ通学せしむべからず」と通知、小学校開設を督促している。

幸介は、教科書が国定になる前、文部省の指名をうけ教科書を出版する日本図書(株)の、兵庫県特約店として、すでに教科書を取り扱っていた。鳩居堂のそうした実績をふまえ、明治六年、神田孝平は自著「世事要言」を鳩居堂から出版している。

兄の直行は、鳩居堂店主としていよいよ盛んな本業の香の道にある。店の移転と営業種目に「書籍」の追加。兄・直行が弟の動向に関心を寄せた記録は見当たらない。

幸介は、県令・神田孝平の教育に寄せる熱情を、自らの道として歩みだす。

神戸元町商店街 楽市楽座 情報 9月

◆神戸元町商店街連合会 TEL381-0831

ひょうご五国 秋の大収穫祭
元町1番街水曜市
9月20日(水) 10時～19時
4丁目 奥播州の酒どころ粟山崎酒蔵通りから
9月16日(土)・17日(日) 11時～18時
5丁目 産直5丁目市・淡路 島の恵み市
9月16日(土)・17日(日) 11時30分～17時30分

◆元町1番街商店街振興組合 TEL331-7850

元町占い市 9月13日(水) 12時～17時

◆風月堂ホール(有料) TEL321-5555

もどまち寄席「趣雑亭」

9月10日(日)
桂 治 門 桂 あさ吉 桂 文三
桂 梅團治 中 入 桂 三象
笑福亭 呂鶴

前売券8月11日より風月堂で発売

◆こうべまちづくり会館ギャラリー(無料) TEL361-4523

9月7日(木)～9月12日(火)
閉鎖(内装工事のため)

栄町通クリーン作戦

栄町通まちづくり委員会は8月18日(金)10時から10時30分まで、栄町通を中心に、ゴミ拾いと不法ビラ撤去、自転車・バイクなどへの不法駐輪警告チラシ取り付け作業など、栄町通クリーン大作戦を実施した。参加者は、(元栄海三丁目協和会)奈良山喬一、(佐野運輸(株))志賀俊之・北島幸宏、(広島銀行)川上雅司、(兵庫県信用組合)福島盛久・石田由香里、(大一産業(株))山部浩、(神明倉庫)藤尾憲弘・米澤彩香、(株)イエスプランニング)上村洋介、(こうべまちづくり会館)小椋辰海、(新光明飾)西村友博・篠原博明・大森貴美子、(佐田野不動産(株))佐田野宏之、以上15名のみなさんでした。毎月第2金曜日午前10時、栄町通6丁目佐田野不動産前集合の上、実施しています。お気軽にご参加ください。(8月は、第2金曜日祝日のため第3金曜日に実施)



編集後記

兵庫県立博物館の特別企画展「れきはく玉手箱」をみた。誓文払いの風景を元町百年の表紙で紹介する武文彦さんの、宇治川踏切あたりのスケッチが展示されているのを知ったからだ。

武さんが、たぐさんの昔の神戸をスケッチしている。掘り出し物の絵を期待して出かけたが、元町の絵はこれ一点だった。おだやかに流れる小川のような宇治川の上に架けられた車両専用鉄橋のうえを、黒々とけむりをはきながら重々しく渡ろうとしている官鉄東海道線の機関車。直角に交差する道には通行止めの紐が渡され、歓声をあげる子供たち。元町第一号の書店鳩居堂はどのあたりにあったのだろう、と詮索しながら帰路につく。

海という名の本屋が消えた (46)

平野義昌

池長孟 その1

《……兵庫の旧家の名門で植物研究所も設け育英商業の校長で、のちに有名な池長美術館(南蛮美術絵画コレクション)の設立者でもある……》^{註1}

以上は映画評論家・淀川長治が姉・富子のロマンスの相手を紹介した文章だ。この話から始めたい。

淀川の家は兵庫西柳原の料理屋・芸者置屋。両親は富子を贅沢でわがままいっぱいに育てた。富子は父の勧める結婚から逃げ、芸者として盛大なお披露目をした。その費用は祖母と母が工面した。ところが、富子はお客と大喧嘩をして5日で辞めてしまう。花街では大きな話題になった。18か19歳のこと。

1923(大正12)年富子21歳、新開地近くで喫茶店オリオンを開く。祖母がまた借金した。富子は店をモダンなインテリアで飾り、舶来最上等の飲食物を安く提供した。加えて富子の美貌と気風の良さが評判になり繁盛した。場所代を要求する地まわりにも怯まなかった。富子はダンスパーティーや映画を楽しむモダンガール、長治をオリエンタルホテルの試写会やパーティーに引っ張り出す。オリオンでも友だちを集めチャールストン・ダンスパーティーを開くようになる。

《……思うに二十二歳くらいの姉が一人で喫茶店をやっているということはあつぱれでもあったが、また危険である。私にするとこの姉に妙な男でもつくとうしようと、そのころ十五歳くらいの少年はそれが心配だったのだが、結婚にこりた姉は「ひとりで生きる」ことに気がまえを持って男は近づけてはいなかった。ところがここに今夜も今夜もというように一人の中年男が日参し、それも姉も祖母もがずっと以前からよく知っている池長氏という、兵庫の旧家名門の富豪。》^{註1}

この人が池長孟(いけなが・はじめ、1891～1955)。私財を投じて南蛮紅毛美術^{註2}蒐集・美術館創設をはじめ、神戸文化史に多大な貢献をした人物である。

池長家は江戸時代末期に瓦屋で財を成し、祖父の代に大地主になった。孟は「瓦屋のぼん」「瓦屋の旦那」と呼ばれたが、養子である。養父の弟の子で、跡取りとして迎えられた。

孟が富子と出会ったのは30代後半、兵庫の旦那であるから、彼女の武勇伝を知っていた。《……姉はこの人と一緒にならうかしらと私にだけ相談した。私は一言の返事もしなかったのだが、この姉はこの池長氏と結婚することをきめた。》^{註1}

富子は孟との結婚しか考えていなかった。オリオンのこと、借金までした祖母と母のこと、池長家のこと、孟が妻に先立たれ3人の子がいることなど、深く考えていなかった。《……池長の有り余る財力、洋行帰りの身についたマナー、そして何よりも富子を夢中にさせたのは、長身でかっぶくのいい池長の、流れるようなダンスであった。》^{註3}

孟は兵役を終え、家業の他、神戸市学務委員(教育委員)、育英商業(現在育英高等学校)校長兼校主を勤めていた。在郷軍人会や青年団の役職もあった。ダンス、剣道、文学、美術と趣味にも忙しい。養母に再婚を勧められるが、拒んでいた。26(大正15)年12月、孟は子どもたちを置いて家を出る。富子との交際が深まり、上海旅行に彼女を同伴している。^{註4}

《池長が野崎通四丁目の閑静な屋敷町の一角に土地を買い、鉄筋コンクリート住宅を立てる決心をしたとき、傍らに常に一人の女性寄り添っていた。ウェーブの耳隠しの髪型といい、明らかに輸入の化粧品を使っらしいなめらかな化粧といい、これもハイカラな縞柄の洋服姿の池長と並ぶと、まさにモガ、モボという組み合わせであった。》^{註3}(野崎通は旧葺合区、現在中央区)

27(昭和2)年暮、地上3階地下1階の豪邸が完成する。孟は「紅塵荘」と名付けた。《……眼下に見おろす神戸港で、何本もの煙突が「紅塵」を吐いているようすからとられたものである。》^{註3}

紅塵荘は建築雑誌に紹介されるほど世間の注目を集めた。白い外壁にスペイン瓦の洋館で、食堂はイギリス風、2階ホールは中国風、3階ホールはスペイン風など部屋ごとに装飾の様式が違う。瓦、タイル、ステンドグラス、装飾金具、建具などすべて孟が吟味し特別注文した。孟の強い美意識である。富子の希望も取り入れられた。実家に残していた子どもたちを引き取った。落成式の他、親しい人を招いて新築披露を2回開いている。一般客と別の日に皇族を招待している。神戸の名士とはいえ異例のことだ。しかし、この儀式に富子は同席していない。親戚にも妻として紹介されていない。まだ入籍していなかった。《紅塵荘の完成を機に池長と富子は、これまでの気ままな生活に終止符を打たねばならなかった。》^{註3}

花隈のダンスホール、小旅行、ゴルフ、ドライブなど、孟は富子を楽しんでいるのを喜び、遊んでいた。《池長には社会的、公的なつきあいがますます増え、いっぽう富子は、周囲からも「ご寮はん」として、家の中に落ちついていることを求められるようになった。いよいよ普通の生活がすべり出したのである。だが、富子にとってこの「普通の生活」ほど居心地の悪いものはなかった。》^{註3}

富子が家庭に収まることは無理だった。破局は痴話喧嘩から始まる。富子が孟の浮気を疑い、発作的にカミソリで手首を少し切ってしまった。孟は家族のもとで頭を冷やすよう諭した。《……新宅に三年もかけ、この豪邸の出来上りとほとんど同時に姉のいっぽう的な喧嘩別れというあわただしい勝手きままの別れがやってきた。三人の子供は姉になつき姉のいうがままの豪邸であったのに、姉はこの屋敷

がいんきで暗いと怒り自殺未遂事件までおっパじめ、池長氏にさんざんめいわくかけて二人は別れたのであった。》^{註1}

ふたりの離別には、趣味、家族・異性関係他さまざまな事情が絡んでいることは想像できる。《姉はローランサン、池長氏は南蛮絵画、趣味がことごとちがいが、姉はパーティー好き(3階は広大なフロアのパーティー用)、池長氏は教育家でスポーツもゴルフよりも剣道、姉はゴルフと車、車は二台持っていた。けっきょく別れたが池長氏はこれはひとときの妻のきまぐれ、再び戻るときめて巨額の今なら何十億というべらぼうな別れ金を姉に与え、姉はこれで商売をしようと外国美術品店を思いつく。》^{註1}

富子の高級美術工芸品店「ラール・エヴァンタイユ」開業資金の出どころは孟だった。父は西柳原の家を売り会下山に移っていたが、それも処分して富子の店に出資し、紅塵荘に近い熊内町の小さな借家に住んでいた。孟は富子が戻ってくると思っていたが、そうならなかった。客として「ラール・エヴァンタイユ」に通う。

《……姉はその買い上げ品に普通の客どおりに金を取っていた。このような温厚な紳士には姉はしょうが合わなかったのであった。ジャズとチャールストンとパーティと衣服、これが何よりの楽しみ。》^{註1}

孟は富子との別離を「賢明な人々」という法廷劇にして出版している。^{註5}

元芸妓で恋多き女優・艶子と大銀行の養子・大槻の恋愛関係がもめて裁判沙汰になる。世間も注目、傍聴人が押しかける。艶子は大槻のDVに耐えられないと慰謝料を要求。大槻は艶子がヒステリックでやむを得ず暴力に及んだと主張。裁判長が双方に尋問すると、お互いに愛情を述べ合い、元の鞘に収まるという落ち。これが孟の素直な望みであったのだろう。

註1 『淀川長治自伝 上・下』中公文庫

註2 池長が蒐集にあたって体系づけた。安土桃山時代から江戸時代初期にポルトガルの影響を受けて日本で制作した美術品が南蛮美術。同じく江戸時代にオランダの影響を受けたものが紅毛美術。

註3 高見澤たか子『金箔の港 コレクター池長孟の生涯』筑摩書房、1989年 孟と富子の睦まじい姿、紅塵荘など貴重な写真収録。

註4 「南蛮堂コレクションと池長孟」展カタログ 神戸市立博物館編・発行 2003年

註5 池長孟・戯曲集 荒つ削りの魂』弘文社(大阪)1929年



「紅塵荘」記事(「神戸新聞」2015年2月1日)戦後池長が売却、長年病院施設として利用されたが、老朽化のため2015年解体された。

出来事ファイル (No.17-9)

■もとまちハートミュージアム2017

6月2日(金)～6日(火)まで、福祉コミュニティづくりを目指すもとまちハートミュージアム2017が、神戸風月堂やまちづくり会館で開かれた。風月堂ホールではコンサート、まちづくり会館地下ギャラリーでは、障がい者アート作品展や作業所製品のワゴンセール、オリジナルクリップづくりなど、盛り沢山なイベントを展開した。



■相生町にマンションギャラリー

旧ファミリア跡地にマンション建設を進めている三菱地所レジデンス(株)は、栄町通7丁目にある中央消防署栄町出張所に隣接する駐車場の一部を利用して、マンション販売のためのギャラリーを設けることになった。8月から工事にかかり11月完成の予定。マンション販売完了まで1年間の開設を予定している。施工は、(株)ネットコーポレーション。

■本館ゲート裏側



■鈴木商店モニュメント除幕式

神戸に本社を置き、一時は日本最大の商社として名ををせた鈴木商店本店の跡地に記念碑が完成、7月7日(金)11時から久元喜造神戸市長、鈴木商店を受け継いだ神戸製鋼所や帝人、商社の双日(日商)、太陽鋳工の代表者らに加え、弊社から地元代表として奈良山会長、片山懇談会代表も除幕式に参加、地域に生まれた新しいメモリアルポイント誕生を祝福した。



■みなと元町探検まち歩き

6月11日(日)13時～17時まで、応募した小学生以上の親子20組がまちづくり会館に集合、写真家・前畑温子先生指導のもと、写真の撮り方、撮影スポットの見つけ方、現場での撮影方法などを教えられ、提供された使い捨てカメラで、元町商店街からメリケンパーク周辺へ。作品は8月末、「現代写真展」として商店街に展示、多くの人を集めた。



■六甲牧場カフェ 乙仲通に開店

このほど乙仲通3丁目に完成したマンション「セレニテ神戸元町」1階に準備されていた店舗に、六甲牧場カフェがお目見えすることになった。店舗は、周辺に古くから残る建物の良さを引き継ぐため、木質の材料を利用したアンティーク感のある落ち着いた内装に仕上げる。パークロードと交差する角地にあたり、オープンな席を設ける計画も。



■36回目を迎えた元町夜市

7月25日(火)午後6時から36回目を迎えた恒例の元町夜市が1番街から6丁目まで、元町商店街全域を会場に開かれた。商店主が開店するステーキや焼き鳥に生ビール。神戸小学校生による和太鼓演奏、ロックンロール、ビンゴゲーム、ミニボニーとの撮影会、パレエンショー、もろくPOPも。映画館では元町ショートフェスティバルも開催した。



■オーナー会で講演会

設立1周年を迎えた元町1番街商店街オーナー会は6月24日(土)、ユーハイム3階ホールで総会を終え、引き続き1級建築士で特定建築物調査資格をもつ応急危険度判定士の八木康行氏を講師に迎え、「オーナーに求められるビル維持管理と更新に必要な予備知識と将来への心得」と題し講演会を開催。問題点の提示にオーナーたちは聞き入っていた。



■平成29年度景市協総会 エスタシオン・デ・神戸で開く

景観形成市民連絡協議会の29年度総会が7月13日(木)16時30分からエスタシオン・デ・神戸で開かれた。今年の幹事役は「もとまちハーバー懇談会」で、片山代表が担当した。会議では、毎年、ひらかれてきた開港5都市まちづくり会議の在り方について諮問があり、神戸地区としては当初の目的を終えた、との意見に集約されることに。



■西元町きらら広場にコペリン基地誕生

基地から基地の間を自由に利用できる電動自転車コペリンが、弊協議会地域ではJR元町駅東口前につづき4月21日、元町6丁目商店街の西にある西元町きらら広場に5台、設置された。元町6丁目商店街や阪神電車西元町駅、JR神戸駅からも近く、ハーバーランドやメリケンパーク方面への便利な基地として多くの利用者が見込まれている。

